

月報 シオン山

2024年7月7日発行 (No406)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

それから、ヨセフはイスラエルの息子たちにこう言って誓わせた。「神は、必ずあなたたちを顧みてくださいます。そのときには、わたしの骨をここから携えて上ってください。

創世記50章25節

「私の好きな言葉」

大森せい子

私は看護師として長い間、病院や施設で働いてきました。そして、その時々で思い浮かべる言葉がありました。

その一つが、『敬天愛人』です。以前、鹿児島に旅行した折「西郷南

洲頭彰館」を訪れ、西郷隆盛の座右の銘であり、好んで使っていたということを知りました。この言葉は、明治時代の啓蒙思想家であった「中村正道」の造語で、「人それぞれには天から与えられた天命があり、それに従って人は生きている。だから、人はまず天を敬うことを目的とすべきである。天は人々を平等にやさしく愛してくれている。天命を自覚するならば天が我々を愛してくれるように、自らも他のひとに対して慈愛をもって接することが大切である」ということだそうです。

当時、仕事上で悩んでおり、この言葉に助けられました。それから、職場で必要な時に引用させていただき、私自身も勇気づけられました。

二つ目は、『闇を照らす光』です。光キリスト教会の解散感謝礼拝の際、谷本仰牧師（北九州地方連合会長）から教会名の謂われの“光”について、「闇があるから光がある。闇を照らす光であり、苦しくても時間が解決してくれる、という意味ではないか」とのお話を聞きました。

光キリスト教会の名前の由来である、ヨハネによる福音書1章4～5節

「言のうちに命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」ということが私なりに理解できたように思いました。

その後は、聖書の意味を少しでも深く知りたいと、牧師が宣教時に話されたことを書きとめておくようになりました。

シオン山教会に転籍して2年がたち、少しずつですが、聖書の言葉の意味が分るようになったのでは、と感じています

最近見た「こども向けの聖書」に、ヨハネによる福音書1章4節「言のうちに命があった」が、書かれていました。そこには、「言葉にはエネルギーが込められています。そのエネルギーはまわりの人も元気にします」とありました。

これからも「エネルギーのある言葉を持って、まわりの人に元気を与えられるように、接していけたら…」と思っています。